

シンポジウム「アグロフォレストリー研究の射程」開催の趣旨

2024年12月18日

主催：木かげ研究会

気候変動対策や森林保全の実現、食料安全保障の手段等、昨今、アグロフォレストリーは世界各地で環境保全型農業として再注目されています。アグロフォレストリーは、「農地に木を組み込む」という意味では世界各地の在来農業において広く見られる慣行であり、多種多様な実践と歴史がありますが、日本国内ではアグロフォレストリーに関する基礎的な情報や研究成果がまとまった出版物などはまだそれほどない状況です。

わたしたちは、アグロフォレストリーを対象とした地域間比較研究を目指し「木かげ研究会」を立ち上げ、主として東南アジア・ラテンアメリカ・アフリカの熱帯林地域におけるアグロフォレストリーの実践について、調査・議論を重ねてきました。これまでの研究から、例えばお茶やコーヒー、カカオ等の換金作物栽培のアグロフォレストリーが、地域の在来農業と連続性を持って発展してきたことや、社会的な変化に住民が対応する手段として、アグロフォレストリーの管理の方法を変化させてきたことが明らかになってきました（四方・藤澤・佐々木 2022¹）。

このように、アグロフォレストリーに注目することは、現時点での農法そのものの生産方法について知るのみならず、過去から現在にかけての社会の変遷と、その社会が農地を介して自然環境とどう関わってきたかという歴史を紐解くことにもなります。また、農地 vs 森林という土地利用カテゴリーの概念から離れ、グラデーションのある土地利用パッチの存在を認識し、そのつながりと役割を理解することでもあります。

昨今は、温帯においてもアグロフォレストリー、あるいは名前は異なるものの「フードフォレスト」など、樹木を組み込んだ農地の実践の広まりが見られます。日本の里山景観、すなわち樹木のある山と農地や居住空間などの空間的な要素が組み合わされた複合的な生態系・土地利用は、アグロフォレストリーの一形態として捉えることができるでしょう。このような新旧の実践もアグロフォレストリーという視点から見直すことで比較や相対化も可能になると考えています。

¹ 現時点での研究成果やわたしたちのアグロフォレストリーにたいする視座については、以下の論文で発表しています。

四方 篤・藤澤 奈都穂・佐々木 綾子 2022. 「アグロフォレストリーとともに生きる：チャ・コーヒー・カカオ栽培の事例より」伊藤 詞子編『生態人類学は挑む SESSION 6：たえる・きざす』京都大学学術出版会.pp. 41-93.

本シンポジウムでは、国や地域、研究分野・研究手法によらず、アグロフォレストリーもしくはアグロフォレストリーに類する実践を対象とした研究・活動の成果を共有し、アグロフォレストリーとはなにか、アグロフォレストリーの研究・実践においてどのような視座が求められるのかを議論するとともに、日本におけるアグロフォレストリー教育の現状と将来を展望する機会になればと考えています。

多面性を持つアグロフォレストリーは、『アグロフォレストリー学』のような一つの学問に収斂できるものではないかもしれませんが、アグロフォレストリーをさまざまな視点から捉え、研究を実施している研究者が一同に会することで、これまでの学問枠組みでは捉えきれない「アグロフォレストリー的な視点」を得ることができるのではないかと期待しています。

また、本シンポジウムは日本におけるアグロフォレストリー研究者のネットワークづくりも意図しています。アグロフォレストリー研究・活動に携わる多くの方々のご参加を歓迎します。

シンポジウムの概要

日時： 2025年1月24日（金） 10:00-17:00

25日（土） 9:30-13:00

場所： 筑波大学 1C 棟 210 号室（対面開催）

（茨城県つくば市天王台 1-1-1）

申込： 不要

参加費： 無料

主催： 木かけ研究会

科研費特別研究員奨励費（22KJ1637）「中米地域におけるコーヒー・アグロフォレストリーを活用した生業戦略の成立条件の検討」（代表：藤澤奈都穂）

共催： 科研費基盤研究 C（21K12404）「世界商品とアグロフォレストリー：生態人類学的アプローチによる地域間比較研究」（代表：四方籌）

科研費基盤研究 C（21K12441）「タイ農村部での人口減少・高齢化が森林・農地管理に及ぼす影響の検証」（代表：佐々木綾子）

連絡先： 藤澤奈都穂（筑波大学）（fujisawa.natsuho.gn@u.tsukuba.ac.jp）

四方籌（京都大学）（kagaris@gmail.com）

佐々木綾子（日本大学）（sasaki.ayako@nihon-u.ac.jp）